

向陽中だより



本校生徒会キャラクター「ひま SUN」

第7号

令和4年1月24日
杉並区立向陽中学校

<教育目標> よく考える人 思いやりのある人 たくましい人

家庭学習の習慣化

校長 斎藤 耕一郎

秋は収穫の季節ですが、子どもたちの学習にも大いなる実りを期待したいものです。そこで、改めて毎日の家庭学習のあり方について考えてみましょう。

定期試験が終わり、答案が返却されているところだと思います。試験勉強を進める際に、自分で計画を立てて、やり残した部分がないか見つけながら家庭学習を進めていたことだと思います。試験勉強は、自分に対して「身に付ける」「記憶」のインプットのために行います。そのインプットした知識を「表現」「発表」のアウトプットによって、理解しているかを定期試験などで確認しています。勉強とは、学生のうちは受け身であることが多いです。しかし、これから社会人となったら定期試験などがあるわけではないので、受け身ではなく自分から勉強していく必要があります。

家庭学習においては、宿題や試験があっても自分から机に向かう習慣を身に付けることが大切です。宿題があるから仕方なしに学習をするとか、人に言われたから机に向かって学習するなど、受け身的な学習では面白くないので長続きしません。また、自宅に帰ると、テレビやゲームなど君たちの心を揺り動かすものがたくさん存在します。メールやSNSの返信に気になって勉強に集中できないこともあると思います。その誘惑に負けない強い気持ちをもつことも重要です。

例えば、サッカーをやっている生徒がいたとします。サッカーのプレーが本当にうまくなろうと思ったら、相手との接触に強くなるために筋トレをやる必要が出てきます。単純で面白くない筋トレをやりたがらない人もいます。しかし、筋トレのような基礎的な練習をやることで、接触プレーに強くなりスピードも出てきてもっとサッカーがうまくなります。本当にサッカーが面白くなってくるのは、この領域に入ってからです。

勉強でも同じことが言えます。基礎的な学習を積み重ねて、基礎的な力やスキルをある程度身に付けなければ、いつまで経っても「面白いと思う学習」に到達できません。

場合によっては、弱い心に打ち克つ強い心、つまり我慢することも大切です。毎日続けて学習していくと、見通しができ、慣れてきて予想がつくようになります。学習の仕方がわかるようになります。分からなければ自分で調べる方法も見つかるようになります。そこから発展して学習する楽しさにも気付くようになります。自分から調べてみたいとなればしめたものです。勉強でなくとも、分からぬことを調べたり、人に教わったりすることで気になっていたことが分かってくると気が晴れたこともあると思います。

学校で学習した内容を、家庭学習において興味をもって調べてみたい、試してみたいことが出てきたときに学習を深める機会となります。まずは、人の力を借りず自分で興味をもって学習を進めることで、自分の知的財産を増やすことになり、将来にとって価値のある習慣となるでしょう。

このように、家庭学習の習慣化は中学校を卒業し上級学校へ進み、社会人となつたときに自分の大きな能力となります。受け身の学習から、自分で主体的な学習になるように今のうちに少しずつ家庭学習を習慣化させていきましょう。定期試験が終わっても、習慣化されるように家庭学習を継続してください。



令和4年度 学力調査の結果

教務部 学力調査担当

今年度の「全国学力・学習状況調査」(国の学力調査) および「杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査」(区の学力調査) の結果をお知らせします。

1 「全国学力・学習状況調査」(第3学年対象)

全国学力・学習状況調査は、国語・数学・理科について、第3学年を対象に調査が実施されました。

区分			本校	東京都	全国
国語	全体		72.0	70.0	69.0
学習指導要領の区分	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	74.9	73.6	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	45.1	43.8	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	71.1	70.9	70.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	68.1	65.7	63.9
		B 書くこと	45.1	43.8	46.5
		C 読むこと	73.6	70.8	67.9
	評価の観点	知識・技能	70.8	69.8	69.0
		思考・判断・表現	66.1	63.8	62.3
数学	全体		58.0	54.0	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	65.3	59.5	57.4	
		51.6	47.6	43.6	
		51.3	47.1	43.6	
		60.4	59.5	57.1	
	評価の観点	知識・技能	64.8	62.4	59.9
		思考・判断・表現	46.6	39.7	36.2
理科	全体		51.0	51.0	49.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域 「粒子」を柱とする領域 「生命」を柱とする領域 「地球」を柱とする領域	42.9	42.8	41.9	
		54.5	51.8	50.9	
		58.7	60.1	57.9	
		48.0	44.9	44.3	
評価の観点	知識・技能 思考・判断・表現	46.2	46.9	46.1	
		54.2	52.3	51.0	

本校の全体平均正答率は、全国に比べ、国語は3.0%、数学は6.6%、理科は1.7%上回っています。東京都と比較すると、国語は2.0%、数学は4.0%上回っています。国語では、「書くこと」「情報の扱い方に関する事項・我が国の言語文化に関する事項」が全国の平均を下回っており、一層の指導の充実を図ります。数学では、いずれの領域・観点でも全国、東京都、杉並区を上回っており、習熟度別少人数学級指導の成果が表れていると推測します。今後も継続的に全国、東京都、杉並区の平均正答率を上回ることを目標としていきます。理科では、「生命」を柱とする領域」と「知識・技能」が東京都の平均を下回っており、今後の課題となりました。

2 「杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査」(第3学年対象)

杉並区 特定の課題に対する調査は、第3学年を対象に国語・数学・英語の調査が実施されました。

		国語			数学			英語		
		全体	知識・技能	思・判・表	全体	知識・技能	思・判・表	全体	知識・技能	思・判・表
3年	本校	60.6	75.5	58.5	60.5	73.5	37.5	55.2	60.9	43.0
	杉並区	62.6	75.1	60.8	59.3	72.8	35.5	54.4	59.7	43.1

数学は全ての項目で上回り、英語はほぼ同等、国語が下回っています。国語科について領域別に見ると、国語は杉並区に比べて、「話す・聞く」が1.1%、「書く」が0.5%、「読む」が3.3%下回り、観点別では「思考・判断・表現」が2.3%下回りました。英語科については領域別の「書くこと」のみが5.6%区平均を下回っており、これらの教科・領域について一層の指導の充実を図ります。

3 「東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査」(全学年対象)

児童・生徒の学力向上を図るための調査は全学年を対象に、意識調査がアンケート形式にて実施されました。

特に注目すべき回答の結果を下表に示します。(肯定的な回答をした生徒の割合を示しています)

回答内容	1年本校	1年都	2年本校	2年都	3年本校	3年都
(1)国語の授業内容はどのくらい分かりますか。	91.8	90.5	82.4	88.7	90.0	89.3
(2)社会の授業内容はどのくらい分かりますか。	97.3	82.8	78.8	80.0	87.8	85.3
(3)数学の授業内容はどのくらい分かりますか。	85.5	88.0	84.7	82.8	83.3	84.8
(4)理科の授業内容はどのくらい分かりますか。	85.5	86.9	84.7	79.6	74.5	76.3
(5)英語の授業内容はどのくらい分かりますか。	82.8	82.3	63.6	73.3	76.6	75.8

10(1)学校以外で、月曜日から金曜日まで、毎日およそどのくらいの時間、学習しますか。(塾等含めない)

	2時間以上	1~2時間	30分~1時間	30分未満	全くしない
1学年本校	9.9	42.3	31.5	9.9	6.3
1学年東京都	21.4	37.7	24.7	10.7	5.5
2学年本校	24.7	31.8	14.1	18.8	10.6
2学年東京都	9.7	27.6	29.1	20.2	13.4
3学年本校	14.4	42.2	23.3	14.4	5.6
3学年東京都	13.6	31.2	28.0	17.4	9.8

以上の結果を踏まえ、教員はさらなる授業改善に努めると共に、個別最適な学習の実現に向けて、ミライシードのドリルパークなどを利用した課題を提示することで、家庭学習の定着を図っていくことと同時に、navima（ナビマ）を利用した自主的な学習を促していくことに尽力していく必要があると考えられます。

以上の3つの調査を受けて、国語・数学・英語・社会・理科の振り返りは以下の通りです。

4 各教科からの振り返り

	成果と課題	改善策
国語	調査の結果や授業の様子から、「話すこと」にかかる部分はよく工夫し、よく話せている。一方、「書くこと」では課題が見られる。自分の思考したことを口で説明することはできるが、それを文章化することに苦手意識がある。	4人班など少人数での話し合い活動は継続して行う。その後、自分一人で文章にまとめる作業を行うことで、「書くこと」に慣れ、自分の考えをより適切に文章で表現できるよう指導していく。

数学	各活動に主体的に取り組むことはできており、各数値は都、全国と比較し高い数値となっている。しかし、昨年度と比べ知識、技能の定着に課題がある。そのため思考を伴う活動に関しても副次的に影響が出ている。	家庭学習の課題を短期的に継続して課題を出すことで基礎学力の定着を図る。また、授業内ではお互いの考えを、根拠を明らかにし、数学的用語を使用して相互に解説する場面を多く設定することで、思考・判断・表現の能力を伸ばす。
英語	学力調査や授業中の観察から見られる本校生徒の傾向としては、話す・聞く活動に積極的に取り組みよく話せるが、書く活動への苦手意識があり、書いた英語に細かいミスが多い。	教科書の単語・本文の筆写等基礎的な反復練習でていねいに書くことを意識させ、知識の定着を図るとともに、目的・場面・状況に応じた実践的な自由英作文へも取り組ませ、思考・判断・表現の能力を伸ばす。
社会	「社会の授業内容はどれくらいわかりますか？」の問い合わせに対して、1年生は都平均を大きく上回る 97.3%が肯定的な回答をしていて、授業に対する意欲や授業規律に対する意識も高い。それと比べると、他学年の数値が低く、2年生は都平均を下回っている。	授業ごとのねらいを明確にして、基礎的な学力の定着を図るとともに、ICT 機器を活用して、資料の読み取る力や、読み取った内容を表現する力を伸ばす取り組みを行い、わかりやすく楽しめる授業の実施を心掛ける。
理科	思考力が身に付くような取り組みを実施してきた成果は出ていると思う。東京都の平均を下回った「知識・技能」、「生命」を柱とする領域」については、学力調査特有の出題方式に対応できていない可能性が高く、問題文の理解が不十分であること、獲得してきた知識を活用できていないことが考えられる。	日ごろから身の回りで見られる自然や日常生活の事象・現象について、これまでに学習した内容を適用して考えられるようにすることが重要である。獲得した知識を当てはめて考えることに必要感を生む活動を設定したり、獲得した知識を再確認し、解決の見通しをもつことができるようになる取り組みを実施していく。

保護者、地域の皆様におかれましては、生徒がますます熱心に勉強に向かうようお声かけいただき、ありがとうございます。また、成果を上げようとする姿勢を温かく見守り、ほめていただきたいと存じます。本校の取り組んでいる授業改善に御理解と御協力をいただければ幸いです。

生徒の活躍

- バレー部【杉並区中学校バレー新人大会】男子第1位 向陽・東京立正中学校合同チーム
- バドミントン部【バドミントン秋季新人大会】女子シングルス 第3位 (2年生)
- 【杉並区中学校陸上競技選手権大会】1・2年男子 走幅跳 第1位 (2年生) 記録5m43

《今後の予定》12月

- 1日(木) 3Cブックトーク
- 2日(金) 冬季三者面談 始
- 5日(月) 全校朝礼 安全指導
- 8日(木) 冬季三者面談 終
- 9日(金) 避難訓練
- 11日(日) 中学校対抗駅伝大会(済美山グランド)
- 13日(火) 2年生 校外学習(神奈川県横須賀方面)
- 14日(水) 2年生移動教室保護者説明会

- 16日(金) ⑥一斉委員会
- 17日(土) 土曜公開授業
- 19日(月) 生徒会朝礼
- 21日(水) 職員会議
- 22日(木) 納食 終・美化活動
- 23日(金) 第2学期終業式(清掃)
- 26日(月) 冬季休業日 始
- 29日(木)~31日(土) 学校閉庁日(機械警備)